



# 博 約

(綾部小学校学校だより)

「自立と貢献  
～夢をもち 仲間とともに  
未来を切り拓く 子どもの育成」  
あいさつ・やさしさ・べんきょう  
綾部市立綾部小学校  
令和6年5月15日発行

## 学ぶ楽しさの実感 「Enjoy!算数」

校長 小嶋 康弘

本校では、これまで2年間、国語科を通して「論理的思考力」と「伝える力」をキーワードに研究を進めてきました。今年度からは、国語科で積み上げてきたこの力を、他教科にも広げようと、新たに算数科を通した研究にシフトチェンジしました。

研究主題は、「**Enjoy!算数**」です。

「Enjoy」とは、「楽しむ」「喜ぶ」「味わう」といった意味です。ただ、私たちが考えている「Enjoy」とは、何かのキャラクターを出してみたり、身近な食べ物や遊びを出してみたり、冗談を交えてみたりといった「一時の興味・関心をひく楽しさ」ではなく、「教材(学習内容)の持つ算数の本質に関わる楽しさ」を目指しています。

子どもたちが主体的に学びに向かうエネルギー(源)は、「学ぶ楽しさの実感」です。

「なぜだろう?」「どうしてだろう?」「はっきりさせたい」といった知的好奇心をきっかけに、進んで問題に取り組み、「できた」「わかった」「なるほど」と問題解決できたその喜びや達成感こそが、算数の本質的な楽しさであり、学ぶ楽しさにつながります。そして、その中で自らの力で獲得した知識や技能や思考力がひいては子どもたちの確かな学力に結びつくのだと考えています。

昨年度、学研教育総合研究所が行った調査によりますと、小学生の好きな教科2位が算数、嫌いな教科1位が算数でした。ちなみに、一昨年度までは8年連続で算数が好きな教科1位だったそうです。

子どもたちにとって、算数は好きな子どもと嫌いな子どもとがどうやらはっきりと分かれている教科のようです。

もしかすると子どもたちは、算数を単に答え(正解)を出す教科、正解、不正解の教科だと捉えているのかもしれませんが。

もちろんそういう一面も算数にはないとは言えません。

算数を学ぶ意義とは何でしょうか?なぜ算数を学ぶのでしょうか?

中央教育審議会答申では、「算数・数学を学ぶことは、問題解決の喜びを感得し、人生をより豊かに生きることにも寄与するものと考えられる。また、これからの社会を思慮深く生きる人間を育成することにも大きく貢献すると考えられる」と示しています。

子どもたちが問題解決の喜びを感得できる、そんな算数の授業づくりをこれから学校全体で進めていきたいと考えています。



研究は国語科から算数科に変わりましたが、確かな学力の基盤となる「論理的思考力」や「言語力」の育成を図るため、今年度も引き続き「言語タイム(1・2年生)」、「論理タイム(3~6年生)」の時間を設定し、「論理エンジン」という教材を使った学習を行います。

教材については、地域の企業様からいただいたご寄付と残りは各学年の教材費で購入します。

また教材をご家庭に持ち帰る機会も考えておりますので、その際にはどのような学習をしているのか、またご確認いただければと思います。